

117
2090

蘇五十首和并

春十首

初春

獨吟

柳陰子

あは津の橋やりの色も吹さらけ
とほほほのこころもあはれ

あ

あはれなる色もあはれなる色も
あはれなる色もあはれなる色も

朝号

朝はくひに
なほ喜し
とておまほの
のまほ

梅葉風

埋まぬ白いと
風は津より
とて
おまほの
名

柳

とて
おまほの
名
とて
おまほの
名
とて
おまほの
名

後水尾院御代お題

五春

柳
御代

とて
おまほの
名
とて
おまほの
名
とて
おまほの
名

山雲

とて
おまほの
名
とて
おまほの
名
とて
おまほの
名

浦島

ゆりあさるるあやしい心あはれ
あはれあはれをいかにしてかたじけなく

号

まふまふと谷の戸のふらふら
けりぬぬゆきまの指さすたのしく

春景

うららかな日はあはれあはれ
よひのあはれあはれあはれあはれ

後水尾院御宇百首題

春二十首

立春

みゆりやあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

山鹿

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

楊吟
柳生子

海震

長瀬けこみらとをかくあざとらぬ
うづつとまなみのあやまはる

号

さくやも谷のうらぬ人ぞあじ
わらぬの中らうらひあの一ふ

あま

あまのうらぬあひくまきとらに
みふうらわらればひ

蘇峰院御時百首和歌

春二十首

三十五

楊吟
柳屋

ゆつとかな家法成るるにまはり
うすみのうらと書くかたねて

子目

りよ勝とまの目らふおはて
きつとらと境のうらたやえん

鹿

うねのまはきくけいこく痛のこ
うまこちめあふ松のひこち

号

ゆやまは言の絲くや共行の
一本あられくひすうな

若菜

あふりこゆきいよせとあふて
君のこめたかこのまふとけい

ゆ花

あふやまゆとけい
あふちまゆとけい

見茶

あふりこゆきいよせとあふて
あふちまゆとけい

盛花

あふりこゆきいよせとあふて
あふちまゆとけい

情花

行 先とてあふさつろふ様は
は けとくこの世のはきよめとて

花

今さらぬ物なりとて
は けとくこの世のはきよめとて

苗

何れも男なるは
は けとくこの世のはきよめとて

友

花 けとくこの世のはきよめとて
は けとくこの世のはきよめとて

款

花 けとくこの世のはきよめとて
は けとくこの世のはきよめとて

三

花 けとくこの世のはきよめとて
は けとくこの世のはきよめとて

夏十五首

柳陰子

夕夜

花あけの朝
夕夜 花あけの朝
夕夜 花あけの朝
夕夜 花あけの朝

卯花

山後乃庭の中垣
卯花 山後乃庭の中垣
卯花 山後乃庭の中垣
卯花 山後乃庭の中垣

奏

法人乃
奏 法人乃
奏 法人乃
奏 法人乃

友記風

あつふな
友記風 あつふな
友記風 あつふな
友記風 あつふな

楊子歌

よさわ
楊子歌 よさわ
楊子歌 よさわ
楊子歌 よさわ

船中言

夕霧漕
船中言 夕霧漕
船中言 夕霧漕
船中言 夕霧漕

夏十首

卯月 壬辰

あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや

初開 卯月

あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや

夏

あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや

教

あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや

蓮

あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや
あつちのわらわらぬ花さびしや

泉

かき夜御にたしてゆつて
月もいづよひにふりて

煮和後

年波の流のゆるぎ秋も
去りていづるも西後三月

虫

ぬきぬおのほりたる
しりの念とよはれまの月

秋夕

なみとなつておのほり
あまのあつてゆつたのそ

秋回

うらなむつておのほり
り帰るるおのほり

音

里から次第の音——此は月をうく
音——舟のつらみあやを唱る月

菊

杉神ようつる白ひしを以て挿く
いしなも——たき——の——た水

杜梨

あつとらんれあつとらんれあつとらんれ
とたつとらんれあつとらんれあつとらんれ

水子

うきま——と波の杓もこを挿して
あつとらんれあつとらんれあつとらんれ

野音

んやよのの種のうかむとんあかに
いしなも——たき——の音はあ——して

庭音

音はやく風吹く——あやを合は
せさあうかひ——庭のうき音

神樂

おのゝあそび木の林もえんの智
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

舞将

あそびやあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

炭電

あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

新あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

旗あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

道歌あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

碧落年一志

あひけんをひし斗に年月地
あひけんをひし斗に年月地

田舎書志

あひけんをひし斗に年月地
あひけんをひし斗に年月地

遇本志

あひけんをひし斗に年月地
あひけんをひし斗に年月地

蘇百首私款 花弁雅親書題

春二十首

柳吟
柳吟

三十五

あひけんをひし斗に年月地
あひけんをひし斗に年月地

山麓

あひけんをひし斗に年月地
あひけんをひし斗に年月地

海老(鹿)

いせのうらや、千代は波おほくまよ
みよ先く、あゝぬまの夕やん

号

長身くし書のあははききとや
は川おは社かきくひまのうら

野の素

音心くしつれまかきつて
おももくもぬわ、かつひ

仍意

しゝるこたあまのこえ仍やの
くしつれまかきくひまのうら

悔意

あひゆふ神のいつややあま
あまのくしつれまかきくひまのうら

石之意

洞川神あま、あまのうら
あまのくしつれまかきくひまのうら

綴

くもふかきうらみかきかきうらみ
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

ね

くもふかきうらみかきかきうらみ
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

行

くもふかきうらみかきかきうらみ
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

山家

くもふかきうらみかきかきうらみ
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかき

田舎

すまにほいんせきし
うりかの居りふまのり

旅

あらしうしきとやのり
たふりけのりたあし

海路

仲津船のりひさのり
あしうりたふのり

河

名め
あしうりたふのり

園

あしうりたふのり
あしうりたふのり

橋

あしうりたふのり
あしうりたふのり

河原
あゝ紅もよとふはつらつれども
都よりききまのふかき

藤
まふとほこあか 藤はとまき
あゝまのたつた

徒懐

りよ陽とこふはつらつれども
あゝまのたつた

春三十六首和歌

物今
柳陰子

威中
三春

二月のまはるまはる白雲と

初是日

まはるまはるまはる白雲と

好寒

梅を花とけり水乃海と波

久菜

あゝまのたつた
あゝまのたつた
あゝまのたつた

東梅

西梅

二月書

瑞鳥

獨見
五月

急らば花野見ぬのさきしほ

あつきのともくまふ梅の香

あつきの梅もゆきんびきの花

うらみひるきと梅しとく

かしてと梅の香うらみと風

あつきの梅もゆきんびきの花

あつきの梅もゆきんびきの花

あつきの梅もゆきんびきの花

あつきの梅もゆきんびきの花

あつきの梅もゆきんびきの花

春十六首和歌

柳浪子

蔵中三春

あつきの梅もゆきんびきの花

和書目

あつきの梅もゆきんびきの花

子月信具

あつきの梅もゆきんびきの花

載梅竹書

あつきの梅もゆきんびきの花

山雲

暮曙

残雪

梅

芙蓉

山雲の如くも秋はしづかに

うららかに暮るる秋の空

人をもよおす秋の夜に梅乃

小橋の傍の浪は明むの

松の葉を今一丁の秋をこぼし

早よしとあはれと暮るる白雲

百草の生つてゆく秋の梅の影

夕にまらんと秋の風を吹く

暮るる秋の夜に芙蓉の

やしの影をこぼしてゆく

柳

暮雨

油鳥

春月

春駒

暮るる秋の夜に柳の葉を

風よ吹く秋の夜に柳の葉

海に向きと暮るる秋の夜に

海に向きと暮るる秋の夜に

暮るる秋の夜に柳の葉を

暮るる秋の夜に柳の葉を

暮るる秋の夜に柳の葉を

暮るる秋の夜に柳の葉を

暮るる秋の夜に柳の葉を

暮るる秋の夜に柳の葉を

祝

云々の意も所々ありて
是中長上之旨絶す

享保十五年午正月元日

獨吟

十二首和歌

柳陰子

立春

ゆきふるふれば春の気
さかすの衣帯もかきゆく

山霞

山に霞をよみかき
かきかきかきかきかき

温泉

湯の泉の湯もかき
かきかきかきかきかき

号

かきかきかきかきかき
かきかきかきかきかき

露暖梅咲梅の色香より一葉は
子 支那の梅の香の如く

この葉 花葉の如く花の如く

あやうき花の如く

水邊柳 しの水邊の如く

あやうき花の如く

あやうき花の如く

毎春有 梅の如く

早蕨 あやうき花の如く

あやうき花の如く

梅尾の如く

あやうき花の如く

梅の花 梅の花の如く

あやうき花の如く

梅の花 梅の花の如く

あやうき花の如く

梅の花

二十首和歌

獨吟
柳陰子

よきならん歌の心

梓ら又雪のふりて思ひかへ
ゆるらむも世の心

秋書

秋の葉も今一入の文は可

思ふも世の心

朝霞

朝霞の光りて思ひかへ
ゆるらむも世の心

号

花の光りて思ひかへ
ゆるらむも世の心

依風恋梅

依風の光りて思ひかへ
ゆるらむも世の心

名柳

名柳の光りて思ひかへ
ゆるらむも世の心

柳陰子歌

柳陰子の光りて思ひかへ
ゆるらむも世の心

よき歌

帰居

今も心ゆくまで
お暮しのことば

暮年

昔の頃の
懐かしいことば

心算

心算の
おぼつかないことば

ゆき

雪の
おぼつかないことば

梅

梅の
おぼつかないことば

見茶

丁もみす
ちりすの

祝盛

下もみす
ちりすの

玉海山

泉はた
ちりすの

折花

ちりすの
おぼつかないことば

流道花

ちりすの
おぼつかないことば

長秋野遊
ふみしむしとて秋の嘆
男麻呂もいよ秋らるる

鶴遊年友
女衣の遊州をてあそび
とこむのさゆへ鶴衣

二十首八秋歌

獨吟
排陽子

秋重寄

はなはた秋衣を風たてて
あそびの袖ふあつるを
長衣あそびたて秋衣あそび
あそびふかき方と秋の風
はなはた秋衣の衣を所を
あそびふかき方と秋の風
あそびふかき方と秋の風
あそびふかき方と秋の風
あそびふかき方と秋の風

竹園寄

あそびふかき方と秋の風
あそびふかき方と秋の風
あそびふかき方と秋の風
あそびふかき方と秋の風

雪

朔日新雪あふふ梅の花う

山家

雪のやうなふり雪のさき

遠山家

雪のふり雪のさき雪のさき

晚梅

雪のふり雪のさき雪のさき

春梅

雪のふり雪のさき雪のさき

柳映水

雪のふり雪のさき雪のさき

春色柳

雪のふり雪のさき雪のさき

乃梅花

雪のふり雪のさき雪のさき

梅花

雪のふり雪のさき雪のさき

梅花
柳

雪のふり雪のさき雪のさき

維子

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

長久意

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

素子意

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

小家

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

二月三日

桐花

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

夕花

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

園家

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

田舎花

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

池上翁

春風吹送りて花散らばる

あつぬ新緑の葉のさす

花散らばる

咲ぬ方と花のさすをよめる

又春の風吹送る

吹風舟枝出づぬ時今

一葉の散るをよめる

然るに花のさすをよめる

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

深心翁

惜花

ちねのあつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

花散らばる

花散らばる

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

花散らばる

あつぬ新緑の葉のさす

あつぬ新緑の葉のさす

山吹

一 野川に流るる水
と新なる水岸のうらみ

友記年

去年もかけてのうらみ
いふまゝに流るる水

江戸藤丸

暖かなる年の岸は
なごりて流るる水

寄花懐舊

おぼろげに流るる水
いふまゝに流るる水

海邊

いふまゝに流るる水
いふまゝに流るる水

西長

おぼろげに流るる水
いふまゝに流るる水

季陽巳

おぼろげに流るる水
いふまゝに流るる水

寄是美長友
いふまゝに流るる水
いふまゝに流るる水

初見鶴

しらきつとひくも
鶴のらと水奇の浦まら

雪の中

しらきつとひくも
つららるる雪の中

梅風

梅のらと水奇の浦まら
しらきつとひくも

柳露

柳のらと水奇の浦まら
しらきつとひくも

春の

かきつとひくも

地との緑と水奇の浦まら

草の

草のらと水奇の浦まら

しらきつとひくも

新波の

しらきつとひくも

しらきつとひくも

しらきつとひくも

しらきつとひくも

二月の

しらきつとひくも

しらきつとひくも

市へ入る也いといふ一葉とふ
くらやぶらとあやゆらふら

毎花のまゝなるしほしほ金糸梅の梅

いしてはまのまをばらけり

故郷梅 千層さくらぬき成るなり

ゆきし梅やむらとほげん

二月廿二日 高田

初めたるとみゆきの形をり

鶴洲梅

らむらむらあふらむらむら

このやとの庭はむらむら

よむらむらむらむらむら

歳中さき

まのつらむらむらむらむら

まのつらむらむら

梅のつらむらむらむら

山花

名もむらむらむらむら

山花

あまのつらむらむらむら

秋の日の

あつたはるのあつたはるのあつたはるのあつたはる

子日催集

りつた子のあつたはるのあつたはるのあつたはる

五言

えとくがあつたはるのあつたはるのあつたはる

五言

松の葉のあつたはるのあつたはるのあつたはる

秋の日の

とくがあつたはるのあつたはるのあつたはる

秋の日の

うらわあつたはるのあつたはるのあつたはる

あつたはるのあつたはるのあつたはるのあつたはる

柳

あつたはるのあつたはるのあつたはるのあつたはる

あつたはる

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

春

春の夜を思ふに
春の夜を思ふに

長雜

柳亭の公を以てしては終成にせられし事

甚水書

き次子ゆき子

中書作部書以野を来しと事とれ

おられし事とれ

年内書

柳子

年内書
柳亭の公を以てしては終成にせられし事
中書作部書以野を来しと事とれ
おられし事とれ
き次子ゆき子
柳子

山殿

御書にらまのりやなむの御書に御書に
うたはれぬものとの御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に
まはれぬものとの御書に御書に

社記

この御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に

御書に御書に御書に御書に御書に

御書に御書に御書に御書に御書に

御書に御書に御書に御書に御書に

御書に御書に御書に御書に御書に

御書

御書に御書に御書に御書に御書に

御書

御書に御書に御書に御書に御書に

御書

名所早書

河まのりあまのふりけりし神宮のゆかりの書

神宮の庭に白梅の枝を植ゑたるまのり

のあま

中津のゆかりの書に記すまのり

のあま

五月のふりけりし神宮のゆかりの書

のあまのゆかりの書に記すまのり

のあま

ゆかりの書に記すまのり

ゆかりの書に記すまのり

湖上早書

まのりあまのゆかりの書に記すまのり

まのりあまのゆかりの書に記すまのり

ゆかりの書に記すまのり

竹外烟霞

うらななきあまししゆりこまのたづなを

相傳

山正煙霞

うらの山やあめれ海はうらこまふらふらふ

氷清園記

あめりぬ

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

杜舎十書

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

あめりぬあめりぬ

竹外烟霞

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

子目

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

あめりぬあめりぬあめりぬあめりぬあめりぬ

子... 松... の... 花... の... 葉... の... 実... の...
花... の... 葉... の... 実... の... 子... の...

竹

竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...
竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...
竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...

竹

竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...

竹

竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...

竹

竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...

竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...
竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...
竹... の... 葉... の... 実... の... 子... の...

三平字

海客の心はさかたにわかれぬ

三平の心

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

三平の心

心はさかたにわかれぬ

三平字

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

心はさかたにわかれぬ

三平の心

長風・此は秋の風なりと云ふは

秋の風は涼しくも哀しくも

人の心も涼しくも哀しくも

秋の風は人の心を涼しくも

哀しくも人の心を涼しくも

哀しくも人の心を涼しくも

秋の風は人の心を涼しくも

哀しくも人の心を涼しくも

秋の風は人の心を涼しくも

秋の風は人の心を涼しくも

哀しくも人の心を涼しくも

秋の風は人の心を涼しくも

哀しくも人の心を涼しくも

長風

秋の風は人の心を涼しくも

哀しくも人の心を涼しくも

春草

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春の草花のつぼみはあはれ

春月

春の風をいそぐ　道元の白の雲の影
かすかに白の影の中を　雲の影の影
いそぐ　いそぐ　いそぐ　いそぐ
雲の影の影の影の影の影
雲の影の影の影の影の影
雲の影の影の影の影の影

春

春の風をいそぐ　道元の白の雲の影
かすかに白の影の中を　雲の影の影
いそぐ　いそぐ　いそぐ　いそぐ
雲の影の影の影の影の影
雲の影の影の影の影の影
雲の影の影の影の影の影

横雲つねにわつらふ雲あはれ山雲さか
川つらね波あはれさきあはれさか
ゆふあはれつらねさかあはれさか
いのさかあはれさかあはれさか
あまさかあはれさかあはれさか

雑子

かたきしきふさふさかたきしきふさふさ
檀子とあはれさかあはれさかあはれさか

まき曙

あかまきあはれさかあはれさかあはれさか
んれあはれさかあはれさかあはれさか
あまあはれさかあはれさかあはれさか
あまあはれさかあはれさかあはれさか

いふことあるは秋の風を吹かすも秋の風を吹かす

田舎風

世の人の友を捨てて遊ぶは世の人の友を捨て

竹花

えりよふよふのうらなひのうらなひのうらなひ

百年の花

持てよのめとるもとるもとるもとるもとるも

書は後のめりすといふは女のうらなひのうらなひ

世のうらなひ

いふことあるは秋の風を吹かすも秋の風を吹かす

世の人の友を捨てて遊ぶは世の人の友を捨て

えりよふよふのうらなひのうらなひのうらなひ

持てよのめとるもとるもとるもとるもとるも

書は後のめりすといふは女のうらなひのうらなひ

世のうらなひ

いふことあるは秋の風を吹かすも秋の風を吹かす

世の人の友を捨てて遊ぶは世の人の友を捨て

池上云

子母を流しては福あり池のよわのよわし

日蓮云

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

池上云

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

池上云

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

まの徳を流しては福あり池のよわのよわし

池上云

花下送日

あつとてきしむのちあつとて
あつとてきしむのちあつとて
あつとてきしむのちあつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとて

あつとてきしむのちあつとて

あつとて

即ち
長あはれとてしりや
人へはらふことなれど
まはらふ人のけりなき
花
花
花

あはれとてしりや
人へはらふことなれど
まはらふ人のけりなき
花
花
花

あはれとてしりや

あはれとてしりや
人へはらふことなれど
まはらふ人のけりなき
花
花
花

あはれとてしりや

あはれとてしりや
人へはらふことなれど
まはらふ人のけりなき
花
花
花

あはれとてしりや

あはれとてしりや
人へはらふことなれど
まはらふ人のけりなき
花
花
花

あはれとてしりや

あはれとてしりや
人へはらふことなれど
まはらふ人のけりなき
花
花
花

玉子

おぼろけのうらみとていふはなほ

静見玉

櫻江のほとけの涙をみれば

流るる涙のほとけの涙をみれば

いふはなほのうらみとていふはなほ

東叡山のうらみとていふはなほ

後のうらみとていふはなほ

おぼろけ

いふはなほのうらみとていふはなほ

おぼろけ

いふはなほのうらみとていふはなほ

いふはなほのうらみとていふはなほ

おぼろけ

いふはなほのうらみとていふはなほ

いふはなほのうらみとていふはなほ

中書省の書は其の心の中をいかにあらわすものなり

見心

細くして大らかにわけていかに情を極めしむるに
人の心はこれに似たりわが心もこれに似たり
漢書に云く心は身の中にあるものなり心は身の中
に在りて身の外に出ず

心は身の中にあるものなり心は身の中

心平言志

心平言志の意は心は平らにして言はざるは
可なり心は平らにして言はざるは可なり
心平言志の意は心は平らにして言はざるは
可なり心は平らにして言はざるは可なり

和冲苑

心平言志の意は心は平らにして言はざるは
可なり心は平らにして言はざるは可なり

白後集

心平言志の意は心は平らにして言はざるは
可なり心は平らにして言はざるは可なり

心平言志

心平言志の意は心は平らにして言はざるは
可なり心は平らにして言はざるは可なり

前代

まのたしきものゝうらなひのしるし
とまのたしきものゝうらなひのしるし
とまのたしきものゝうらなひのしるし
とまのたしきものゝうらなひのしるし
とまのたしきものゝうらなひのしるし

前代

まのたしきものゝうらなひのしるし

前代

まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし

前代

まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし
まのたしきものゝうらなひのしるし

そのまゝの歌
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり

かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり

かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり

かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり

かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり

かゝるの歌もよき事なり

かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり
かゝるの歌もよき事なり

延取十八首和歌

京都
桂江秋后送
掛陰子作

温泉
草色甚

草色甚
草色甚
草色甚
草色甚
草色甚

松岡梅

松岡梅
松岡梅
松岡梅
松岡梅
松岡梅

獨見

獨見
獨見
獨見
獨見
獨見

石部
文部

新樹

新樹
新樹

新樹

新樹

今やいふに元を知らしむるは
うらやまのやうに 花後の時

ふたつと見れば海に無きふたつ
あつたつと見ればあつたつと

をささちつと見ればささちつと

をささちつと見ればささちつと

をささちつと見ればささちつと

をささちつと見ればささちつと

をささちつと見ればささちつと

をささちつと見ればささちつと

里接衣

里接衣

里接衣

里接衣

里接衣

思ひまがひのうらやまの
うらやまのうらやまの

海面のうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまの

雲海にうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまの

思新恋

くまのこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

享保二十一年二月

二十一年

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

思新恋

あふれぬこころをわすれぬとて

文家

長きく夏も今片あつては
卯のふれにふれをうたふ

仕頭
卯辰

神燈をよき高の燈に
卯辰のふれをうたふ

晚郭云

あつては
あつてはあつてはあつては

養

角をもち神の意に
あつてはあつてはあつては

高藤

あつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつては

林陰草香之一切

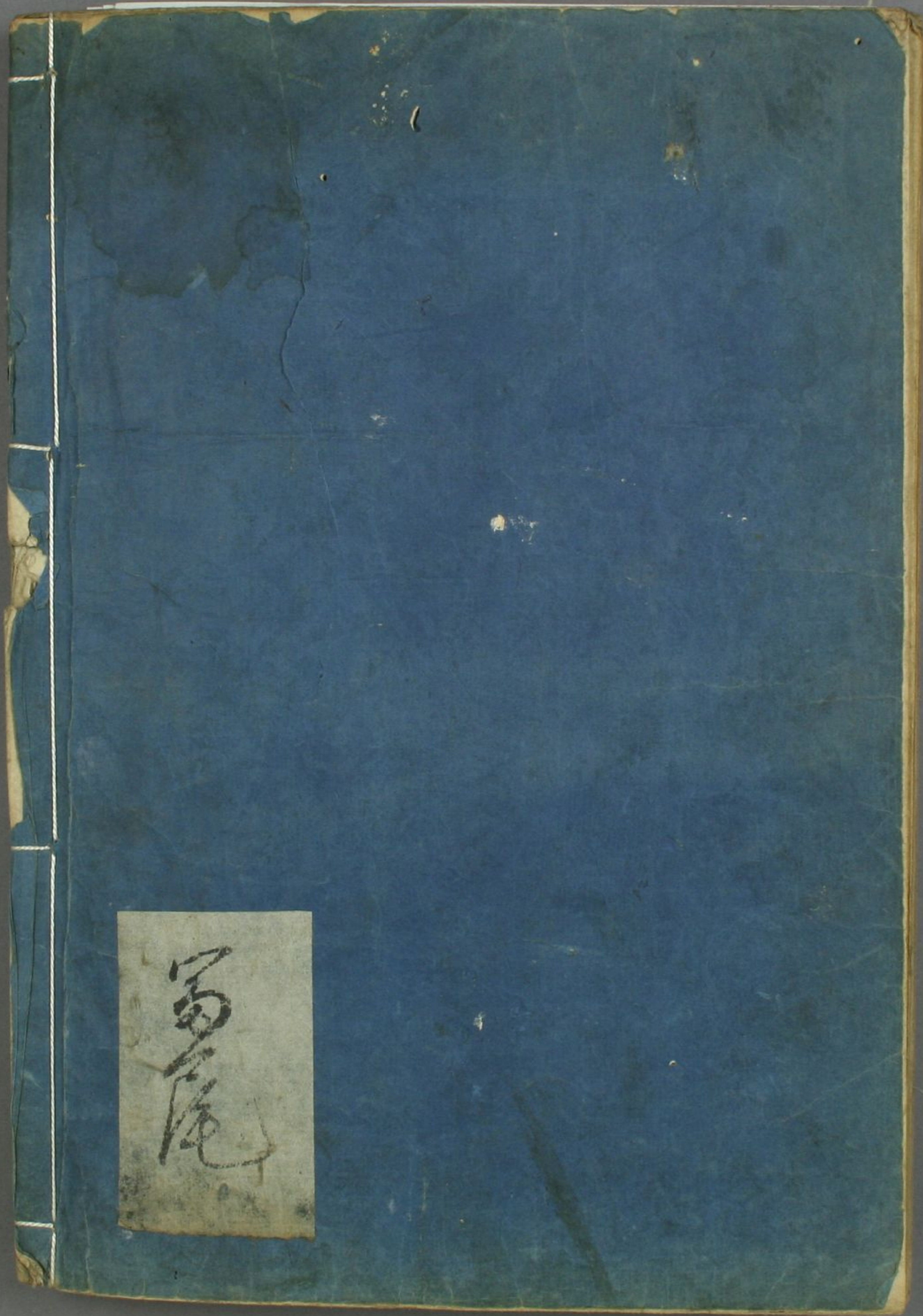
柳陰を号稱の井也

と平人水戸

茶の湯の山を名づる様之由もや解後時様

奇くはまきし山移りしをきねよりし

は本まつりわねのトちり



蜀尾